令和3年度　高生中学校通信
NO、３号

輝　け　！　　高　生　中

文責　校長　和田義則

令和3年度　高生中学校体育大会　開催

～体育大会で学んだこと「最後まで自分をあきらめない。最高の演技のために」～

今年度の学校行事も、昨年同様に新型コロナウイルス感染防止のために種目は縮小されました。しかし、今年の体育大会は、全学年が「最後まで自分を諦めない。」という気持ちが、全ての競技から伝わる素晴らしい体育大会でした。
どの学年も「最高の演技をつくろう。」と高い目標を掲げ、何度も何度も練習を繰り返しました。体育委員が、練習中に「もう一度がんばりましょう。」と声をかけ、生徒は練習を重ねるうちに「心を一つにすること」、「協力すること」等を考えてがんばりました。
「ラジオ体操」は「単なる準備体操ではなく、演技である。」として、何度も練習を繰り返し、本番は全員の動きがそろって、指先まで伸びている、「北九州一番の体操」になりました。
学年演技は、１年が「サーキットダンス」、２・３年生は「集団行動」を行いました。１年生の演技は、音楽に合わせて体操と筋力トレーニングとダンスを行う、本校では新しい取組でした。２年生は、昨年の３年の集団行動を超える内容で、気迫のこもった演技でした。特に３年の集団行動は、高生中体育大会で史上最も難易度の高い演技で素晴らしい演技でした。
また、学級対抗リレーやブロック別対抗リレーは、次の選手にバトンを渡すまで、全員が全力で懸命に走ってました、
最後に平日のお忙しい中観覧していただいた保護者の皆様、受付や感染防止のための検温や消毒をして下さったPTA役員・委員の皆様、本当にありがとうございました。

第３学年　生徒感想

私は中学校最後の体育大会で、集団行動が最も印象に残っている。その一番の理由は、よりよい集団行動をつくるために、「全員が努力して、一生懸命に考えた。」ということを感じたからだ。成功したのは、体育委員や先生のおかげで、特に体育委員は２学期に入り毎日のように話し合い、当日までみんなをひっぱり、その頑張りを見て、自分も応えたいと思った。
今回の演技で一番難しい場面での練習でいいなと思うことがあった。一つは、うまくいかずに仲間が対立した時、相手に「合わせて。」と責めていたが、「みんなで合わせよう。」という言葉に変わり少しずつ良くなっていった。また、うまくタイミングが合わない子に、「今のメッチャ良い。」とか「ナイス！」と声をかけていたことです。このように集団行動では、たくさんの頑張りと協力があったからよいものになったと思う。

私は、体育大会を通して学んだことが２つあります。一つは「周りがやる前に自分がやる。」ということです。集団行動の練習で整列するときも、「指示が出たら並ぼう。」と最初は思っていましたが、練習を重ねるうちに「言われる前に並ぼう。」と思うようになりました。
次は、みんなで心を一つにする練習一つ一つを本番と思ってやることで、本番では百パーセントの実力が出ることです。初めて練習した時は、「こんなことできるわけない。」を思っていたけど、本番は「こんなに上手くいった。」と思いました。

１年生感想

中学校初めての体育大会は本当に楽しかったです。練習の時に２・３年生の先輩と話す機会がなかったので、同じチームで頑張れて本当に良かったです。本番では、自分が出ない種目でも声を出せないのが残念でしたが、拍手でたくさん応援しました。
一番心に残ったのは、２・３年生の集団行動です。全員の心が一つになったように、動きがそろって本当にすごかったです。私も来年や再来年には先輩のようになりたいと思いました。

一番印象に残ったのは、３年の集団行動です。足踏みの音が一つになっていて、掛け声で合わせるのではなくリズムを一人一人刻みながら行動していました。私が想像していた集団行動と違い、動きが一つできれいで速くてすごく驚きました。
私もいつか先輩のように観客が驚くくらいの集団行動ができるように先輩を見習いながら練習していこうと思いました。

第２学年　生徒感想

僕たちの集団行動のように、何回も失敗していると思うと、他の学年の競技にとても応援したくなります。失敗や成功をくりかえし、何回も挑戦した姿を思うと心にぐっとくるものがあります。
今僕たちが見ているのは完成した姿であって、そこたどり着いた過程を見ていません。ですが、その完成度を見れば、想像できないくらい頑張ったことは理解できます。僕たちも何回も同じ練習をしてきたからです。

私が体育大会で一番良かったと思うことは、他の学年が競技をしていると時に、全員が本気で応援をしたことです。
全員で声を出して応援している時に、一人一人が本気で体育大会に臨んでいてクラスが一つになっていてとても良かったと思いました。